

第4次刈谷市地域福祉計画 令和6年度までの取組状況まとめ及び総括

基本理念：参加と支え合いで築く 共に暮らせるまち

基本目標1 地域福祉の意識づくり・担い手づくり

(1) 地域福祉活動の担い手の発掘・育成

- ・まちづくりコーディネーターや認知症センターなどの専門的な知識や技術を持つ人の育成を行った。引き続き、各種講座などを実施する。
- ・高齢者、障害のある人、育児経験者などが、自身の知識や経験を生かして地域福祉活動の担い手となる取組を推進した。引き続き各事業を実施する。また、ピアサポートやピアカウンセリング（障害のある人が他の障害のある人を支援する社会貢献活動）については、引き続き相談支援事業所等から情報収集しながら、それを実現するための場の必要性について検討を行う。
- ・地域における生活支援・介護予防の基盤整備に向けた取組みである「ちょっとささえあい」の活動を、今後、市内全域に拡大し、困りごとを抱える高齢者とセンターの獲得に向けて、事業周知に取り組む。
- ・ボランティア団体と個人が連携し、気軽に地域福祉活動に取り組めるよう、ボランティアセンターの運営を行った。また、小中学校における福祉教育や福祉・健康フェスティバルを実施し、福祉の実践者の担い手を増やすため、引き続き、事業を実施する。
- ・各地区社会福祉協議会で行う研修会などの活動に対し、講師調整などの支援を行った。地域福祉活動のリーダー的な役割を担う人が少ないことが課題であり、地域全体の福祉意識の向上及び福祉に関する啓発活動を行う必要があるため、地域でのニーズ・要望に応じた研修などを今後も継続して実施する。

(2) 福祉教育の充実

- ・園児の各施設訪問による高齢者や障害者との交流や小中学校での福祉教育を実施した。地域との交流を図ることができるよう工夫とともに福祉実践教室における事前指導、事後の振り返りを重点的に行った。今後は、内容を検討し、より効果的な講座を実施する。
- ・福祉に関する出前講座や市民講座を実施した。今後も社会情勢や参加者ニーズなどを踏まえながら調査研究し、福祉の理解を深める講座を開催する。また、「高齢者家庭介護教室（ハートフルケアセミナー）」については、講座時間、開催回数などを工夫することで、参加へのハードルを下げる。
- ・市役所職員（新規採用職員）を対象に福祉体験研修や障害者差別解消法に関する研修などを実施した。全職員への周知についても検討する必要がある。
- ・ボッチャ体験会などを通じて、障害や障害のある人への理解を深める機会の提供に努めた。今後も引き続き事業を行う。

(3) ボランティアの育成・支援

- ・各種サークルなど高齢者、障害のある人、子育て世帯などを支援する各団体への支援を行った。今後は、あいかりやホームページに加えて、LINEでの広報を活用し、活動スタッフや参加者の確保に努める。
- ・情報、活動、人などのマッチングを行うボランティアセンターの運営を行うとともに、ボランティア団体や企業、自治会、市民などの交流の場となる「わがまちのつむぎ場」を開催した。
- ・ボランティア団体と協働した講座、福祉・健康フェスティバル、ボッチャ大会を開催した。引き続き事業を行い、ボランティアを始めるきっかけに繋げる。

(4) 広報・啓発活動の充実

- ・福祉に関する各種サービスやボランティア情報などについて、市民により、市ホームページ、社協により、各種ガイドブックなどにて周知した。また、子育て関連情報については、情報を電子化することで各公共施設における紙媒体配布の見直しを行う。
- ・市民が福祉への意識を高めるきっかけとなるよう、福祉・健康フェスティバルなどのイベントを開催した。また、障害者雇用に対する理解を促進するためセミナー等を開催した。今後も継続して実施する。
- ・刈谷のまちをよくしていくことを目的に、市民が自主的に行う活動に対して、補助金を交付した。今後、団体にとってより活用しやすい補助金となるよう、まちづくり活動支援事業補助金の少額申請以外のメニューについても、内容を見直しを行う。

第4次刈谷市地域福祉計画 令和6年度までの取組状況まとめ及び総括

基本理念：参加と支え合いで築く 共に暮らせるまち

【年度別目標の達成度】

| 区分 | | | 計画策定期 (令和元年度) | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | <目標未達成の項目について> 要因、課題、今後の方向性等 | 担当課等 |
|-----------------------------|------------|-----|------------------|--------|--------|--------|--------|--------|-------------------------------------------------------------|-------------|
| 福祉実践教室 | 満足度 | 目標値 | 68.00% | 70.00% | 72.00% | 74.00% | 76.00% | 78.00% | (目標達成) | 社会福祉 協議会 |
| | | 実績 | | 69.00% | 71.27% | 69.00% | 68.00% | 95.00% | | |
| 市社会福祉協議会の関わる障害者 スポーツイベント | 参加者数 | 目標値 | 430人 | 480人 | 530人 | 580人 | 630人 | 680人 | (目標達成) | 社会福祉 協議会 |
| | | 実績 | | 240人 | 907人 | 1,180人 | 1,272人 | 1,099人 | | |
| 刈谷市民ボランティア活動センター | 団体登録 数 | 目標値 | 526団体 | 545団体 | 550団体 | 555団体 | 560団体 | 565団体 | ボランティア活動を始めるきっかけづくりや、既に活動している団体が気軽に来館し、悩みを相談しやすい雰囲気づくりに努める。 | 市民協働 課 |
| | | 実績 | | 543団体 | 547団体 | 553団体 | 556団体 | 557団体 | | |
| ボランティアコーディネーター養成講座 | 延べ 修了者数 | 目標値 | 18人 | 19人 | 20人 | 21人 | 22人 | 23人 | (目標達成) | 社会福祉 協議会 |
| | | 実績 | | 19人 | 20人 | 20人 | 21人 | 23人 | | |
| ボランティア団体と 協働した養成講座 | 開催数 | 目標値 | 未実施 | 1回 | 2回 | 3回 | 4回 | 5回 | (目標達成) | 社会福祉 協議会 |
| | | 実績 | | 0回 | 1回 | 3回 | 4回 | 5回 | | |

【成果指標の達成度】

| 指標項目 | 参考値 (H25) | 現状値 (H30) | 目標値 (R5) | 調査結果 (R5) | 区分 |
|--------------------------------------|-----------|-----------|----------|-----------|------|
| 刈谷市の地域福祉が進んだと感じる割合 (非常に進んだ+やや進んだ) | 15.4% | 16.9% | 21.0% | 11.8% | 一般市民 |
| 福祉を学んだことがある人の割合 | 72.0% | 78.2% | 83.0% | 85.7% | 若年者 |
| ボランティア活動への参加割合 (参加している) | 10.9% | 10.5% | 15.0% | 10.1% | 一般市民 |
| ボランティア活動への参加割合 (参加している) | 15.7% | 19.1% | 24.0% | 13.0% | 若年者 |

○「刈谷市の地域福祉が進んだと感じる割合」「ボランティア活動への参加割合」は、新型コロナウィルス感染症に伴う地域活動やボランティア活動の自粛等により目標値を達成しなかった。今後は、地域課題の把握と対策を実施するとともに、ボランティア活動や地域福祉活動の支援をさらに進めていく必要がある。

○「福祉を学んだことがある人の割合」は、目標値を達成した。

第4次刈谷市地域福祉計画 令和6年度までの取組状況まとめ及び総括

基本理念：参加と支え合いで築く 共に暮らせるまち

基本目標2 支え合いのしくみづくり

(1) 地域福祉活動の支援

- ・自治会運営の負担軽減につながる新たな支援を行った。今後は各補助金を活用し、業務の効率化及び地域の活性化を行う自治会が増えるようさらなる周知・広報を図る。
- ・各地区の実態把握に努めるとともに、各地区社協及び福祉委員会の活動支援を行った。福祉委員会未設立地区については、引き続きアプローチを行う必要がある。
- ・社協職員が地域課題に取り組む実践者としてのコミュニティソーシャルワーカー（CSW）養成講座を受講し、必要な知識と技法を習得した。

(2) 見守り活動の推進

- ・市、社協、事業者が連携し、見守り体制の充実を図った。今後とも、地域住民の身近な相談窓口として民生委員・児童委員や地域包括支援センターの周知を継続する。
- ・イベント等での周知により、行方不明高齢者等SOSネットワーク登録者数増加に努めた。また、はいかい高齢者搜索模擬訓練を福祉健康フェスティバルなどで実施した。

(3) 集いの場の充実

- ・高齢者サロン、認知症カフェなど気軽に集まることができる場づくりを推進した。
- ・児童館や子育て支援センターの運営を行うとともに、中高生の居場所「なごみんはあと」、学習支援を行う「なごみん塾」を開催した。住民主体の子育て支援団体については、わんさか祭り等において、子育て支援団体の活動の啓発を行い、活動を広く周知する。

(4) 連携と協働の推進

- ・高齢者サロン交流会や子育て支援団体ネットワーク会議の開催など、地域活動を行っている団体同士の情報交換、交流の場を提供した。今後は、地域生活課題解決に向けて、民間企業やボランティアと、さらなる連携を図る。
- ・障害に関する地域課題解決に向けた障害者自立支援協議会や、高齢者に関する地域ケア会議、子ども・子育て会議等を行った。課題の把握、解決のため、引き続き実施する。
- ・指定管理施設の障害福祉サービス事業所で実施する農産物の生産を支援した。今後も、農産物を市内の民間企業と連携して加工食品を生産できる環境の整備を支援するとともに、農業関係のイベント等での宣伝、紹介を行う。

第4次刈谷市地域福祉計画 令和6年度までの取組状況まとめ及び総括

基本理念：参加と支え合いで築く 共に暮らせるまち

【年度別目標の達成度】

| 区分 | | | 計画策定期 (令和元年度) | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | <目標未達成の項目について> 要因、課題、今後の方向性等 | 担当課等 |
|------------|---------|-----|------------------|--------|--------|--------|--------|--------|------------------------------------|---------|
| 福祉委員会の活動計画 | 作成数 | 目標値 | 9 | 9 | 10 | 10 | 11 | 11 | (目標達成) | 社会福祉協議会 |
| | | 実績 | | 11 | 14 | 15 | 15 | 19 | | |
| CSW養成講座 | 延べ修了者数 | 目標値 | 10人 | 11人 | 12人 | 13人 | 14人 | 15人 | (目標達成) | 社会福祉協議会 |
| | | 実績 | | 11人 | 12人 | 13人 | 14人 | 16人 | | |
| 民生委員・児童委員 | 相談・支援件数 | 目標値 | 2,035件 | 2,090件 | 2,120件 | 2,150件 | 2,180件 | 2,210件 | 気軽に相談できる方法の模索や、民生委員活動のPRをさらに行っていく。 | 福祉総務課 |
| | | 実績 | | 1,563件 | 1,538件 | 1,721件 | 1,646件 | 1,659件 | | |

【成果指標の達成度】

| 指標項目 | 参考値 (H25) | 現状値 (H30) | 目標値 (R5) | 調査結果 (R5) | 区分 |
|---------------------------------|-----------|-----------|----------|-----------|------|
| 地域のつながりが強いと感じる割合（強い+どちらかといえば強い） | — | 25.6% | 30.0% | 19.4% | 一般市民 |
| 民生委員・児童委員の認知度（委員も活動内容も知っている） | 6.7% | 10.2% | 15.0% | 7.2% | 若年者 |
| 社会福祉協議会の認知度（名前も活動も知っている） | 12.6% | 15.4% | 20.0% | 11.9% | 一般市民 |

- 「地域のつながりが強いと感じる割合」は、新型コロナウイルス感染症に伴う地域活動の自粛等により目標値を達成しなかった。今後は、住民同士が気軽に交流でき、つながりを感じられる場づくりが必要である。
- 「民生委員・児童委員の認知度」は、市民だよりや市公式LINEでの周知とともに、ホームページ等を活用した広報活動により、積極的に民生委員・児童委員の活動内容の周知を図る。
- 「社会福祉協議会の認知度」は、目標値を達成しなかった。イベントなどの各事業、取組を通して、社会福祉協議会の活動を知ってもらうことが必要である。

第4次刈谷市地域福祉計画 令和6年度までの取組状況まとめ及び総括

基本理念：参加と支え合いで築く 共に暮らせるまち

基本目標3 安心・安全な福祉のまちづくり

(1) 相談体制の充実

- 複雑化・複合化した相談内容に対応するため、福祉総合窓口を設置した。今後とも、障害のある人、高齢者、生活困窮、子ども・子育て、ひきこもりなど各機関との連携を強化していく必要がある。
- 障害者支援センター、地域包括支援センター、子育て支援センター、子ども相談センター等の運営及び、障害者等が地域生活において、安心して自立した生活を送れるよう、地域生活支援拠点の整備を行った。地域生活支援拠点については、機能充実・整備に向けた検討を行う。
- 職員の相談技術向上のため、研修会や講演会、交流会などに参加した。今後とも、積極的に研修等だけでなく、各関係課や事業所との交流会へ参加する。
- 地区社会福祉協議会や福祉委員会などの活動支援を通して地域住民とのつながりを持ち、また、日常生活に生じる様々な課題に対する相談対応を行った。引き続き、地域生活課題等の把握に努める。

(2) 公的な福祉サービスの充実

- 高齢者や障害のある人を対象とする日常生活用具費やタクシー券の支給など様々な公的な福祉サービスを提供した。配食サービスについては、身体及び経済状況が原因で食の自立が困難な高齢者に対してサービス提供できるよう、対象要件、利用者負担額などの見直しを行う。
- 福祉サービス従事者の技術向上及び職場環境の改善を図るため障害福祉サービス事業所の担当者会議を行った。また、介護人材確保・育成支援のため、研修費補助制度の周知啓発を継続的に行う。

(3) 誰もが住みやすい都市環境づくりの推進

- ユニバーサルデザインを踏まえた公共施設などの整備を行った。引き続き、建替えや大規模改修の際にユニバーサルデザイン等を踏まえた整備を行う。
- 高齢者や障害のある人への移動支援を検討するため、北部地域においてデマンド交通の実証実験を行った。また、「かりまる」新路線の運行及び利用促進策の実現に向けた検討を行う。

(4) 権利擁護の推進

- 成年後見制度における後見人などの調整及び支援を円滑に実施するため、中核機関を運営し受任者調整会議を開催するとともに、地域における関係機関のネットワーク構築を行った。今後とも、各関係機関との連携を図るとともに、市民後見人などの担い手の養成に取り組む。
- 刈谷市成年後見センターにおいて、成年後見制度の普及・啓発、相談、手続支援等を行った。今後もハートページや市ホームページ、地域包括支援センターなどで成年後見制度について周知を図る。

(5) 地域の防災・防犯活動の推進

- 防災リーダー、災害ボランティアコーディネーターなどの養成講座を開催した。また、福祉避難所の備蓄倉庫の整備を行った。今後とも、使用期限や賞味期限の近づいた備蓄品の活用方法の検討を行う。
- 自治会、自主防災会などを含めた打合せを行うとともに、住民参加型の地区避難所開設訓練や、災害ボランティアコーディネーター等による災害ボラセン立ち上げ訓練などを実施した。
- 避難行動要支援者名簿を作成し、避難支援関係者へ提供した。返信率向上を図るため、分かりやすい調査票様式の作成や、制度をより周知する必要がある。
- 避難行動要支援者の個別避難計画について、モデル地区の計画の紹介や自主防災会、民生委員・児童委員に向けて説明し作成を進めた。地区関係者の協力を経て、全地区での計画策定を進める。
- スクールガードや地域安全パトロール隊など、地域の自主的な防犯活動への支援を行った。引き続き、日常生活の中で実践できる防犯活動の啓発を行い、防犯意識向上を図る。

第4次刈谷市地域福祉計画 令和6年度までの取組状況まとめ及び総括

基本理念：参加と支え合いで築く 共に暮らせるまち

【年度別目標の達成度】

| 区分 | | 計画策定期 (令和元年度) | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | <目標未達成の項目について> 要因、課題、今後の方向性等 | 担当課等 |
|--------------------------|-----|------------------|--------|--------|--------|--------|--------|---------------------------------|--------------|
| 高齢者、障害のある人の包括的・総合的な相談体制 | 目標値 | 未整備 | 準備 | 準備 | 整備 | | | (目標達成) | 福祉総務課 長寿課 |
| | 実績 | | 準備 | 準備 | 準備 | 整備 | | | |
| 地域福祉に関する市役所内の組織横断的な課題検討会 | 目標値 | 未設置 | 準備 | 設置 | | | | (目標達成) | 福祉総務課 |
| | 実績 | | 準備 | 設置 | | | | | |
| 避難行動要支援者名簿の情報提供に係る同意者(数) | 目標値 | 3,953人 | 3,976人 | 3,999人 | 4,022人 | 4,045人 | 4,068人 | (目標達成) | 福祉総務課 長寿課 |
| | 実績 | | 5,173人 | 5,673人 | 4,795人 | 5,450人 | 5,180人 | | |
| 災害に関する訓練の実施 | 目標値 | 実施 | 実施 | 実施 | 実施 | 実施 | 実施 | (目標達成) | 社会福祉協議会 |
| | 実績 | | 中止 | 中止 | 実施 | 実施 | 実施 | | |
| 成年後見制度推進役としての中核機関 | 目標値 | 未整備 | 準備 | 準備 | 整備 | | | (目標達成) | 福祉総務課 |
| | 実績 | | 準備 | 準備 | 準備 | 整備 | | | |

【成果指標の達成度】

| 指標項目 | 参考値 (H25) | 現状値 (H30) | 目標値 (R5) | 調査結果 (R5) | 区分 |
|-------------------------------|-----------|-----------|----------|-----------|------|
| 刈谷市の福祉水準が高いと感じる割合(非常に高い+やや高い) | 15.7% | 20.9% | 25.0% | 18.6% | 一般市民 |
| 避難行動要支援者の認知度(名前も内容も知っている) | 10.7% | 15.4% | 20.0% | 15.2% | 一般市民 |
| 地域包括支援センターの認知度(名前も活動内容も知っている) | 9.2% | 16.5% | 21.0% | 17.2% | 一般市民 |
| 自主防災組織の認知度(名前も活動内容も知っている) | 13.7% | 27.1% | 32.0% | 20.3% | 一般市民 |

- 「刈谷市の福祉水準が高いと感じる割合」は、新型コロナウイルス感染症に伴う地域活動の自粛や福祉ニーズの変化等により目標値に達成しなかった。今後は、ボランティア活動や地域福祉活動の支援をさらに進めていくとともに、福祉教育の充実を図ることが必要である。
- 「避難行動要支援者の認知度」「自主防災組織の認知度」は、目標値に達成しなかった。引き続き、自主防災会の活動支援し、講話や講演会を通じて地域における共助の大切さを周知し、啓発を行う。
- 「地域包括支援センターの認知度」は、H30時点からは0.7ポイント上昇していますが、目標値に達成しなかった。地域包括支援センターは、高齢者の身近な相談窓口であることから、高齢者のみではなく家族等の介護者にも啓発、情報提供を行う。